

曾根概要

高砂市曾根地区は、天満宮と塩づくりの長い歴史で知られています。

菅原道真（845 ～ 903 年）は学者、詩人、政治家でした。後に彼の霊は学問の神である天神様として神格化されました。901 年、菅原氏が九州へ向かう途中、船が曾根の近くに停泊しました。菅原はこの機会に天満宮の西にある日笠山に登り、松の種を植えて九州の繁栄を祈りました。その種は立派な松の木に育ち、その幹は神社に保存されています。

数年後、菅原の息子、淳茂が曾根を訪れた際、父を祀る神社を建立しました。神社の建物は、時代の騒乱や自然災害によって損傷したり破壊されたりしましたが、現在も同じ場所に残り、天満宮として知られています。学問の神様として天神様を祀る神社の一つであり、学業成就を祈願するために多くの人が参拝します。

曾根の海岸沿いの場所は塩の製造に適していました。江戸時代初期（1603-1867）までに塩田は 9 ヘクタール以上あり、この地域の産業がピークに達した 1690 年代後半には約 49 ヘクタールに拡大しました。

天満宮の北西には数軒の塩商人が住宅や店舗を建て、塩取引の商業地を形成していました。当時の著名な入江家の邸宅など、古い建物が数多く残っています。